

此の時回鶻の宰相赤心及び那頡^{〔一九一〕}𠵼等も嗚沒斯と共に南に來りたるものなることは通鑑^{〔一九二〕}にも見え、別に圖書集成邊裔典回紇部彙考の終に載する、李德裕の草に係る賜回鶻嗚沒斯特勒等詔にも「勅回鶻嗚^{〔沒之〕}𠵼^{〔誤〕}斯特勒・哪^{〔即那〕}𠵼^{〔頡〕}特勒……等、天德軍遞多覽所奉表至、再三省覽、憂屬良深、……今又知堅昆等五族、深入凌雪、可汗被害、公主及新回鶻播越他所、未歸城邑、特勒等力不能制、思存遠圖、相率遁逃、萬里歸命、又知欲奉公主朝覲、忠謀不從、已道沙漠之南、同歎五原之塞、發此單使、布其赤心云々」と云へば、此の詔が、嗚沒斯等の烏介可汗に先立ちて初めて天德軍に至りし時に降されたるものにして、而して少くとも嗚沒斯及び那頡𠵼が同時に南下したるものなることを明示するものと曰ふべし、されば新唐書回鶻傳に「其相赤心、與王子嗚沒斯特勒・那頡𠵼、將其部欲自歸」と記せるは、即ち此の時の事を曰へるものなること疑無し、然るに其の後此等の特勒宰相の間に軋轢を生じ、遂に赤心は嗚沒斯の爲に殺され、那頡𠵼は赤心の部下を併せて南の方幽州を衝かんとし、張仲武の軍の爲に破られ、遂に可汗に捕へられて殺さるゝに至れり、舊唐書回紇傳は此の次第を記して

有廻鶻相赤心者、與連位相僕固者、與特勒那頡𠵼、擁部衆、不賓烏介、赤心欲犯塞、烏介遣其屬嗚沒斯、先布誠於天德軍使田牟、然後誘赤心宰相、同謁烏介可汗、戮赤心於可汗帳下、并僕固二人、那頡^{〔一九三〕}𠵼戰勝、全占赤心下七千帳、東瞰振武大同、據室韋黑沙榆林、東南入幽州雄武軍西北界、幽州節度使張仲武、遣弟仲至、率兵大破那頡之衆、全收七千帳、殺戮收擒老小、近九萬人、那頡中箭、透髓軍潛脫、烏介獲而殺之とし、新唐書回鶻傳には

嗚沒斯以赤心奸桀難得要領、即密約天德戍將田牟、誘赤心斬帳下、那頡𠵼收赤心衆七千帳、東走振武大同、因